

キャラクター名
逢瀬 友二

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	インテリア的な同居人
	モルフェウス			年齢	外見は23歳(実5歳)	性別
オプション			年齢	外見は23歳(実5歳)	性別	男
覚醒	命令	衝動	飢餓	初期侵食率	34 %	
出自	使命	経験	喪失	邂逅	自身(坂月那岐)	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	2	0	0			2	行動値	13
感覚	4	0	2			6	(非装備時)	13
精神	0	1	0			1	戦闘移動	18
社会	2	0	1			3	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	5		RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	5	1			

所持品	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
青年(かつての少年)	P 好意	N 恐怖		
少女	P 遺志	N 劣等感		
坂月那岐	P 好奇心	N 敵愾心		
片桐弓子「シナリオロイス」	P 同情	N 隔意		
コマッキー「シナリオロイス」	P 誠意	N 無関心		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定+LV個、浸食率基本値+5								
オリジン:レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: 【精神】達成値+[LV×2]								
C:モルフェウス	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
砂の加護	1	3	オート	視界	単体	-	-	
効果: 判定前に使用、その判定ダイスを+LV								
ハンドレッドガンズ	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 射撃武器を製作する。								
サポートデバイス<射撃>	1	6	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果: <射撃>判定D+[LV×2]								
クリスタライズ	3	4	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果: 攻撃力+[LV×3]、装甲値を無視								
万能機具	1							
効果:								
無情厨师	1							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「友のため、誇りのため、この力を振るおう。」
 1人の少女が1人の少年に贈ったオルゴールに込めた想いがRBとして遺志を覚醒させたもの。
 性格はおとなしめ、というより二人以外の人類にあまり接していない故に感情の出し方が下手。RBであり、青年の友として生きることを誇りに思っている。思考は先走りの癖があり、物事を一面だけで全て断定してしまう癖がある。
 好きなものは日向ぼっこ、読書、青年と過ごす時間。
 嫌いなものは猫と宵闇。
 レネゲイドの力を振るうのは、そんな愛しい青年との日常を護るためである。
 今は居候の身、擁護するなら青年の営むカフェのお手伝いさん、最近ラテアートにハマった。
 武器と言えば剣より銃を選ぶ理由は「青年からもらった服が汚れないようにしたいからだ。」だそうだ。
 人類を知りたい、そんな気持ちもあるのだあろう。もしくは青年に好意を寄せているだけなのかもしれない。
 「逢瀬 友二」の名は目覚めて共に暮らし始めてから少年(今は青年)がつけてくれた。曰く「思い出にぴったりのもの。」だとか。
 【オルゴールの記憶】
 少女は少年を、少年は少女を愛していた。幾度となく紡がれてきたありきたりの劇のように。それは少女の病死という形で幕を引く。別れの間際に贈ったオルゴール、彼女の想いがこもった一品。刻まれた言葉は『ずっと忘れないでね、オルゴールは妖精の声だって。』の一言。
 どうやら、二人がよく読みあっていた絵本の一節らしい。
 少年が流した惜別の涙、そのぬくもりに興味を持ったオルゴールは、その遺志を覚醒させるに至った。
 「妖精のオルゴール」
 さあ、もうお別れだ。 そのオルゴールを大切に持っておいでよ
 もうすぐ、きみの時が動き出しても 僕の歌を届けてくれるのだから
 『ずっと忘れないでね、オルゴールは妖精の声だって。』
 よき隣人たる妖精が少女に恋をして、同じ時を生きていけない末にお別れをする物語らしい。